

様式 3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (理 科)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然に目を向けるよう目的意識をもった観察、実験を行っている。 観察、実験レポート等の評価をより意欲を高めるように改善したい。 個に応じた、きめ細かな学習指導が必要。 科学への興味、関心を高める工夫が課題。 4 観点の中で「科学的な思考力」がやや不十分である。「知識・理解等」の学習から更に、思考力を高めていくための指導方法の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいをはっきりさせてから実験、観察に取り組ませたい。 授業において学習内容を系統的に進めて、論理を積み重ねさせたい。 実験、観察の方法を生徒の視点から見直したい。 小学校の学習内容と関連づけて指導計画をたてる。 授業の中で、対話をしながら科学的思考力に関わる問題を多く取り上げ、時間をかけて追究する学習形態にする。 形成的評価をSP表等により分析し、次の授業に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 年 1. 2 回学力テストで補充問題や、発展的な問題演習を行う。 定期テスト前の土曜日に年 4 回の補充教室を行う。 K 中ベーシックで週 3 回補充的な指導を行う。 第 2 土曜以外の土曜日の 2 時間の補充教室の実施。 ミニテストやその補充シートを用い基礎基本を繰り返す。 繰り返教科書や資料集の発展課題を取り上げ、時には演示実験等により関心、意欲を高める。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> 仮説実験授業「燃焼」で科学の楽しさを感じ始めた。 週 1 回の探究実験授業は生徒のほとんどが楽しみに毎回積極的に参加した。 通常の授業の他に、計画的に入試を視野に入れ家庭学習用の問題集を配布し、放課後の補習で説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングの実践として仮説実験授業を行い思考力判断力を養いそれを文章にまとめ発表することで、科学に対する興味と共に、論理的な表現力を養う。 家庭学習用として入試問題集を課題としてやらせ、その後テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年 4, 5 回学力テストで補充問題や、発展的な問題(入試問題)演習を行う。 定期テスト前の土曜日に年 4 回の補充教室を行う。 K 中ベーシックで週 6 回× 2 時間の補充的な指導を行う。 K 中ゼミで 11 月から 200 単位時間以上の補充発展の入試対策問題演習の補習授業を行う。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> 週 1 時間の探究実験で様々な現象に触れ、自ら実験を通し探究する力を身につけさせているが、能動的に学習に慣れていない生徒には馴染めない。 入試問題集を再編集し家庭学習や、放課後補習を 400 単位時間開き指導をしているが、参加者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究実験は 90%以上の生徒が満足している。文化発表会で研究成果を発表することで表現力をつける。 2 月に校内作品展で発表することで 1 年間のまとめを行い、より深く探究する。 問題集からテストを行い成績に反映させることで学習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年 4, 5 回学力テストで補充問題や、発展的な問題(入試問題)演習を行う。 定期テスト前の土曜日に年 4 回の補充教室を行う。 K 中ベーシックで週 6 回× 2 時間の補充的な指導を行う。 K 中ゼミで 11 月から 200 単位時間以上の補充発展の入試対策問題演習の補習授業を行う。